湧別町立上湧別学園　学校だより

上学

Ｎｏ．６　　９月発行

文責　早川　大介【校長】

令和８年度重点目標

未来につなげる力の育成　～ONE TEAM でつなぐ９年間の学びの教育～

ならぬことはならぬものです

朝夕はめっきり冷え込むようになり、秋の深まりを感じる季節となりました。日暮れも早くなり、季節の移り変わりを実感する今日この頃です。

さて、「什（じゅう）の掟」という言葉をご存じでしょうか。

江戸時代の会津藩では、藩士の子供たちが「什」と呼ばれる集団をつくり、年長の子が年少の子に、日々の生活の中で守るべき決まりを教えていたといわれています。その「什の掟」には、次のようなものがあります。

一、年長者の言うことに背いてはなりませぬ
一、年長者にはお辞儀をしなければなりませぬ
一、卑怯な振舞をしてはなりませぬ
一、弱い者をいじめてはなりませぬ
一、戸外で物を食べてはなりませぬ
一、戸外で婦人と言葉を交へてはなりませぬ

そして、最後にこう続きます。　**「ならぬことはならぬものです。」**

現代の私たちから見ると、時代や社会の変化によりそのままではそぐわない内容もあります。しかし、最後の「ならぬことはならぬものです」という言葉には、子供たちに「人として、してはいけないこと」をきちんと伝えようとする、大人の強い責任と覚悟が込められているように感じます。もちろん、これは「理由を説明せず、大人の言うことに従わせればよい」という意味ではありません。

私自身学生時代を振り返ってみても、かつては、有無を言わさぬ厳しい指導や、時には「雷が落ちる」ように大人から激しく叱られることが、日常の風景としてありました。しかし、今の教育において、体罰は決して許されるものではありません。頭ごなしに叱りつけたり力で押さえつけたりするのではなく、子供の思いや言葉に耳を傾け、丁寧な対話を重ねながら、なぜそれが大切なのかを粘り強く伝えていくことが求められています。

一方で、子供の自主性を尊重することと「何をしてもよい」とすることは同じではありません。自由に考えること、自分らしく生きること、互いの違いを認め合うことは、これからの社会を生きる子供たちにとって、とても大切なことです。その一方で、人を傷つけること、卑怯な振る舞いをすること、弱い立場の人をいじめることなど、社会の中で生きていく上で「してはいけないこと」も確かにあります。

そうした場面では、子供の声に耳を傾け、理由を丁寧に説明しながらも教え導く側が「これはしてはいけない」と毅然として示すことが必要です。その根底にあるのが、「ならぬことはならぬものです」という言葉に込められた大人の覚悟なのではないかと思います。

子供たちの成長と幸せを心から願うからこそ、私たち大人がその両方を大切にしながら、日々の教育に向き合っていきたいと思います。

アンケート項目	児童	生徒	保護者	教職員	前期の結果を受けての改善策
1 学校の授業はよくわかる	4.1	4.2	3.5	3.8	児童生徒の評価が低いわけではないのですが、保護者の方の数値が低めとなっています。通信や日々の連絡で授業の内容や様子、成果を発信していくように心がけていきます。
2 授業を受けていて「面白い」と感じたり、「もっと学びたい」と思ったりする。	4.0	3.5	3.4	3.9	後期課程の生徒・保護者の数値が低めとなりました。前項1の生徒の評価は高めなので、授業内容は理解しているが意欲が低い傾向にあるものと思われます。今後は生徒が意欲的に学べるように、教職員の授業改善を目指していきます。
3 授業を振り返り、次の授業や家庭学習に生かそうとしている。	3.7	3.0	3.1	3.7	特に後期課程の生徒と保護者の数値が低めとなりました。学校での声掛けもしていこうと考えていますが、ご家庭でも学習へ向かっていく声掛け、学習時間や内容の把握などへのご協力をお願いすることがあるかもしれません。
4 家庭学習や宿題を決められた時間している。	3.4	2.9	3.1	3.1	学年が上がるにつれて、数値が下がる傾向が見られました。「もっと学びたい」と思わせるような授業づくりをしたり、家庭学習への取り組み方を伝えたりするなど、教職員としても方法を考えます。
5「学習の決まり」を守り、落ち着いて授業を受けている	4.0	3.6	3.2	3.8	おおむね落ち着いて授業が行われていますが、保護者にその様子が伝わっていなかったり、特定の学年の様子が様々な方面から伝わったりしていることが推察されます。組織として「安心して授業を受けられる」ようにしていきます。
6 元気よくあいさつをしている。	4.1	4.1	3.6	3.8	教職員からの指導だけでなく、児童生徒間であいさつの大切さが浸透していくことが最も効果的であるように感じています。上級生から下級生への働きかけや委員会活動などを通して呼びかけるとともに、教職員からも元気な挨拶を実践していきます。
7 学校のきまりを守って生活をしている。	4.0	3.8	3.3	3.9	発達段階や個別の事情に配慮しながら、担任だけではなく教職員全体で児童生徒への指導や関わる場面を増やしていきます。また、できる限り児童生徒の声を拾い、対話と説諭、評価活動を通して、きまりを判断させる力を養っていきます。
8 先生たちは、自分の気持ちを受け止めてくれている。	4.1	3.8	3.7	4.3	全体的に高い数値で評価されている反面、保護者と教職員との認識にズレが生じています。児童生徒に対して必要な指導を見通しをもって丁寧に継続していくとともに、ご家庭との連絡を密にし、連携を大切にしていきます。
9 先生たちは、いじめや暴力などがおきないようにしてくれる。	4.4	4.0	3.6	4.3	どの学年でも非常に高い数値で評価されています。いじめの未然防止に向けた働きかけや、有事の際の迅速な対応、保護者との密な連絡を今後も継続していきます。
10 いろいろなことに、自分から進んで行動している。	3.9	3.7	3.6	3.9	行事や委員会活動、日常の授業や学級活動で、指示待ちにさせず、何かに取り組む場面や、自己決定の機会を増やしていきます。発達段階に応じ、短学活などでも主体性をはぐくむ場の設定と評価活動を通して力をつけさせていきます。
11 他の人に思いやりをもって、やさしくしている。	4.1	4.0	3.6	3.9	学園全体でみると、素直で優しい児童生徒が多く、学校生活の中で思いやりのある言葉を聞く場面も多く見られます。これからもクラス全体や異学年などへ思いやりの心を育てられるような働きかけをしていきます。
12 事故のないように、安全に生活することを心がけている。	4.4	4.1	3.7	4.2	おおむね高い数値ではありますが、登下校のバスの利用、自転車の乗り方について不安を感じている保護者が多いものと思われます。教職員で協力し、バスや自転車の乗り方について行っている指導を継続していきます。
13 元気に体を動かしている	4.3	4.0	3.8	3.3	教職員の評価が極めて低くなりました。昼休みの校庭や体育館の使用エリアの割り当てルールなどの運動機会の再構築・再調整をすることにより、児童生徒の体力を向上させていきます。
14 先生たちは、親切・丁寧にしてくれる。	4.3	4.1	4.0	4.3	これからも学校とご家庭の連携を密にしていくことを継続していきます。学校行事の案内や各種問い合わせへの対応において、連絡漏れやアプリ配信の遅れが生じないよう、確認体制を徹底していきます。
15 ゲーム機や携帯電話を時間を決めて使っている。	3.7	3.1	3.0	3.1	教職員からも指導していますが、家庭内のことであるため、深く干渉しきれない部分があります。改めて、取り扱いについて保護者の方にお話をお願いするとともに、必要な資料や情報の提供を学校側で行っていきます。
16 i-Padを学習や学校生活に活かすことができている。	4.1	4.1	3.7	3.7	児童生徒はおおむね端末を学習ツールとして活用することができています。教職員に若干の苦手意識があるので、研修の機会などを通して、できることを増やし、児童生徒に還元していきます。
平均値	4.0	3.7	3.5	3.8	**赤は85%(4.25)以上 青は70%(3.5)未満** **各項目とも上段が前期の結果、下段が後期の結果です。**